

「関わることの大切さ」

有識者 二丸 佐代子さん さんまる さよこ



校、中学校でPTAを経験し、たくさんの方々との出会い、関わり、多くのことを学ばせていただきました。

現在、ボランティアセンターの「つくしんぼ」で、子育て支援ボランティアに参加していますが、ここには毎日たくさんの方々が遊びにやっています。

中には子育てに不安を持つお母さんもいますが、他のお母さん方やスタッフの先生方、ボランティアの皆さんとの関わりの中で少しずつ自信をつけている姿もよく見受けられます。ここでも「出会うこと」「関わること」「つながること」の大切さを実感しています。今の時代、人や

地域と関わらないでも生きてはいけません。それに他人と関わっていくには、多くの我慢や様々な調整力が要求されます。

しかし、関わり、つながることによって世界は何倍にも広がっていきます。また昨今、子どもたちを取り巻く環境、特に安全面が危惧されています。地域をあげて子どもたちを守らなければならぬ状況ですが、逆にそれが地域の連携、関わりを強くしていくよい機会なのではないかと思えます。大いに「関わって」「いきたい」ものです。

に飽きると公民館に顔を出すのですが、その時、周りの方たちからとても親切にしてくださいました。それまで市内のマンション暮らしで、ご近所との関わりがあまりなかった私には意外でした。

若杉山の美しさに魅せられて須恵町に引っ越してきて、今年で20年になります。

「お互い様の心」

第二小学校区コミュニティ主宰 森 悠子さん もり ゆうこ



友達とのコミュニケーションのとり方が苦手になってきているようです。

一家団欒であるはずの食卓も、家族バラバラで会話も少ない。また、近所の人が注意をしても、親がうちの子は、〇〇ちゃんに引き込まれて悪さをしたのでしようと言いつつ、

それを聞いた子どもは、悪いことをしたという自覚もなく反省もしないのではないのでしょうか。

私にも、1歳と3歳の孫がいます。1歳の誕生日を迎えた孫は、何にでも興味を示し、物に触れたり、見たりしているのと覚えていきま

家庭の教育力の低下が気がかりです。親は子どもに家庭の一員としてのお手伝いをさせず、叱ることもない家庭が増えたように思えます。

人によく似ているので滑稽にも思えます。

危険なことも多々ありますが、注意したり叱ったりすると、周りの大人の様子を見ながら成長していくものです。また、3歳の孫はことばが達者になり、家に訪ねてきた人や、道で逢った人に大きな声で挨拶します。そういった子らを見てみると、動作や話し方が、親や周りの大

昔から、「子どもは親の思うとおりにほらならない。親がしたとおりにする。」と言われていました。私も、子育ての最中は、忙しい忙しいで、もう少し時間があればいいのにと思っていました。今、考えると幼児虐待

公園デビューという言葉は聞いたこともなく、親や地域の人に助けられ、親も子どもと一緒に育てられたとつくづく思います。

今日、子育てする環境は大変厳しくなっています。この危機的な状況に対して、家庭でどう対処したらよいか具体的なことも交えて話し

合い、それを地域がどうフォローしていくかが大切になってくると思えます。お互い様と言う言葉をいつも胸に、子育てに関して、これから何かお手伝いをと思っています。

「小学校は地域の公民館」

有識者 今泉 盛剛さん いまい すみ せいこう



検討する」という提案で、「コミュニティで育つコミュニティを育てる学校づくり」というメッセージが発表されました。

この報告が本町の社会教育委員会の中で協議していた「校区コミュニティ」の内容とほぼ合致し、平成13年4月に町内三小学校内に「校区コミュニティ」の核となる事務局が設置され、新しいまちづくりがスタートしたわけです。

小学校を地域の拠点として位置づけ、地区の公民館として活用しようと考えたのは、将来の須恵町を担うであろう子どもたちに対する思いを、学校や保護者だけでなく、校区全体で考えていこうというのが大きな目的であります。

最近、社会問題となっている児童生徒をターゲットにした犯罪が多発しています。本町では、学校・家庭・各校区のコミュニティが危機意識を持ち、互いに連携し、子どもたちを犯罪から守ろうと通学路の点検や下校時の見守り等の取組が地域ぐるみでなされています。

このような素早い動きが、住みよい地域、隣近所の方の姿が見える町にしていくこととする動きにコミュニティ

ティの成果が表れています。

それは、普段から地域の一員としての自覚を持ち、何事にも積極的に参加し、各人の役割をきちんと果たすような当たり前の生き方が次第に広がっていくのだと思えます。

多くの方が、まずは今自分の力に合ったことから始め、自分の心の安らぎのためにいつ出番が来てもいいような心の準備をし、実行することが大切だと思います。あなたの力は小さくとも大きな輝きになっていくと思えます。

今後は、みんなの心に宿った種や苗がどんな花壇を造り、花を咲かせられるかが普段のまちづくりだと思えます。

楽しみましょう！まちづくりを。

昨年の生涯学習まちづくりフォーラムは、愛媛県伊予市から若松進一氏を迎え、まちづくりや地域づくりについてユーモアを交え、わかりやすくお話ししていただきました。

キーワードとして、楽しいことをする。新しいことをする（自分の心を新しくする）。美しいことをする（定住の条件）ことが、町を愛する心であり、町に想いを寄せることにつながっていくとメッセージがありました。

さて、本町のまちづくりは他に先駆けて取り組んできました「校区コミュニティ」の実践です。教育改革国民会議第二分科会（学校教育部会）最終報告という形で「新しい時代に新しいタイプの公立学校の可能性を